

まなびあい！

2016年11月30日発行
発行者 自治労日高町職員組合
青年女性部 てづかう。

幌延特別号

第31回 11.23幌延デー！！

1. 幌延ってどこ??

幌延町は道北に位置し、日高町から約400キロメートル離れたところにあります。酪農が盛んであり、バターや脱脂粉乳を加工・生産する雪印メグミルク工場もあります。



2. 何故11.23幌延デーなの??

1982年当時の幌延町は町内に雇用の場が少なく、若者が町外に流出し、人口が減少傾向にありました。それを防ぐため、「財源確保」、「過疎の解消」と「地域経済の振興」を理由に、低レベル放射性廃棄物貯蔵施設誘致を表明しました。

1984年に取り組んだ幌延町周辺7町村の反対署名では71.8%の反対を表明しているにも関わらず、施設建設のため、深夜に地上踏査を強行してきたのが、1985年11月23日でした。それから毎年11月23日に原発反対の集会を行っています。

3. 実際になにするの??

前日22日には中川町で交流会をし、23日の午前中に天塩町で青年女性学習会がありました。4産別175名の参加があり、映画「高江 森が泣いている」を鑑賞し、沖縄の基地建設問題について学習しました。午後からは、幌延町に移動し、800人以上が集まった北海道平和運動フォーラムが主催する集会（デモ行進）に参加しました。

4. 幌延の現状とこれから・・・

現在は北海道、原子力機構、幌延町の三者により「幌延町に放射性廃棄物は持ち込まない」「研究終了後は地上の研究施設は閉鎖し地下施設を埋め戻す」「将来とも幌延町に最終処分場や中間貯蔵施設は設置しない」といった、幌延町における深地層の研究に関する三者協定が締結されており、20年程度とされていた研究期間が2021年頃に終了時期を迎えます。

ですが、原子力機構は研究終了時期、埋戻し時期について明らかにしておらず、「研究期間の延長」や「三者協定」を反故にし、幌延町が最終処分場にされるかもしれない危惧すべき状況です。幌延がダメなら道内の別の自治体に・・・という政策の危険性もあります。北海道の「核抜き条例」や「三者協定」を遵守させるとともに、道内全ての自治体において、高レベル核廃棄物最終処分場の受け入れを拒否するたたかいを進めていくことが重要になります。

前日の交流会と宿泊した中川町ぼんびら温泉のようすです 土別市・斜里町・初山別村など全道の仲間と交流することができました！



青年女性学習会とその施設です！
みなさんならどう使いますか??笑



幌延町での風景です！ 10 を超える極寒の中デモ行進をしました！！



参加しての感想

- ・前日の交流会では、道北の人とも交流でき、日高町の組合活動は他の単組からみても積極的に活動で
すごいと言われ、もっと頑張ろうと思った。
- ・核を地層処分することは、地震大国の日本で自殺行為だと思うし、原発を再稼働もしてはいけないと
思った。日本は特に核の恐ろしさを知っている国なので地層処分も再稼働も反対だ！
- ・沖縄の基地建設問題も幌延深地層研究センターも住民の反対を押しつけ強行された点では同じもので
あり、政府は国民の命を軽視していると感じた。自分達と離れているから関係ないではなく、
平和と生命を守るためにも、みんなで一緒に取り組んでいかなければならないと感じた。
- ・デモ行進や反対運動をおこなってもすぐに問題解決はできないけども、声を上げて抵抗することに
意味があると思った。組合でも同じで、「どうせ変わらないから」と何も言わないのではなく、
おかしいことや不満は声に出していこうと思った。